

ペルリ来琉 100 年記念の F D C

石原 正



那覇中央 1953. 5. 26 (特印)

J P S製のFDC封筒に記念切手を貼って、普通に那覇中央局の特印を押したFDCですが、封筒の余白にゴム印のカシエが2個余分に押されています。左側は封筒に印刷されているのと同じ構図のペリーの肖像、右側は特印にも描かれている艦隊の図案です。

この頃の琉球切手では、このようなゴム印のカシエを白封筒に押したFDCをよく見かけます。これは那覇中央局で公式に作られた「官製印章(オフィシャルカシエ)」で、2度の試行を経て1951年10月の「天女航空」から1958年10月の「守礼門復元」まで、普通切手を含めほとんどすべての新切手に際して作成されたものです。カシエの印色はそのときどきで異なり、紹介品の青のほか、黒、赤、紫、緑などが用いられています。ほとんどの切手については1種だけ作られましたが、この「ペルリ来琉」と「政府樹立」の際には2種のカシエが用意されました。その2種を両方も、しかも市販のカシエつき封筒に押しています。さすがに詰め込みすぎ(?)で、特印と重なってしまっています。このような盛りだくさんのFDCは、あまり見かけないようです。

この官製印章について、詳しくは「沖縄切手ハンドブック」(1973年J P S、立川憲吉編)をご覧ください。上記2度の試行(1948年3月航空郵便開始、1951年4月臨時中央政府創立)を含め、作成された全印章が解説つきで掲載されています。さらには「官製印章に準ずるもの」として1956年に内務部から出された郵便に押された「貯蓄増強運動記念」や、「官製印章にまぎらわしいもの」として1951年の「琉球大学開校記念」、「蔡温植林記念」に際して使われた私製品(画像なし)も紹介されています。(編)